

## 『喪われたレーモンド建築』

東京女子大学  
東寮・体育館

東京女子大学レーモンド建築  
東寮・体育館を活かす会編著

二四〇〇円  
工作舎

日本の近代建築に貢献した建築家A・レーモンド建築の東京女子大学（杉並区）の九棟のうち大正時代に造られた東寮・体育館の解体計画が卒業生たちに知らされたのは二〇〇六年のことだった。この本は東京女子大学OGたちが「世界的な文化遺産」を守ろうとして大学側と闘った記録である。OGで発起人の一人である作家の永井路子は理事長に会議や文書で何回も撤回を求めた。

冷静な永井の物言いは迫力がある。さまざまな文化財の保存運動に参加している永井は「ホンモノ



は『残さないでよかった』ことは一度もなく、『残してよかった』か『残せばよかった』しかない』の名言を残している。

しかし、大学側に押し切られ、保存の願いは叶わなかった。

百年近い歴史を持つ東京女子大学の、二十一世紀の歴史に大きな意味を持つ二棟の存続

問題について『大日本史料』のように、個々の意見を交えず、できるかぎり多くの客観的史料を残したかったという。沈着冷静な筆致が迫力を増す。CD付きの貴重な本だ。

問題について『大日本史料』のように、個々の意見を交えず、できるかぎり多くの客観的史料を残したかったという。沈着冷静な筆致が迫力を増す。CD付きの貴重な本だ。